



【2017-05-03】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感

『シンプルに考える、その理由
は、人間は複雑だから』

長野修二

シンプルに考える、その理由は、人間は複雑だから

シンプルに物事を考えることが必要なのは、人間の存在自体が複雑だからです。

人間が多くなればなるほど多くの考え方が出てきます。

当然、それだけ物事が複雑化することになります。

他方、この人間がもつ複雑さが、多くの進歩をもたらしてきたのも事実ですが、同時に人間がもつ複雑さの大海の中で彷徨っているのが今の時代ではないでしょうか。

進歩とは、まさに複雑になることだと考えている節もありそうです。

しかし、人間自身が生み出してきた複雑さは、益々その勢いを増していくのでしょうか。

私はむしろシンプルに考えていくことが必要になっていくのではないかと考えています。

複雑化（別な呼び方では専門化でしょうか）は一見すると多くの事柄を包含しているように思えますが、その実、多くの人間には複雑化された内容はなかなか理解できていないように感じます。

今日、企業社会では、多くの事例が散見されます。

例えば、上場企業における会計基準や会社法の運用、あるいはそれらを監査する監査法人の在り方、コンプライアンスに関する定義や運用など、人間が理解していない事実には枚挙にいとまがありません。

このような社会的制度の複雑さ、いわば専門性は、監査法人自体も本質的には理解などできていないと考えています。

理解できている振りはしていますが、実際の監査業務は社会的な流れの中で過去の一定経験を通して業務をおこなっているに過ぎないのではないのでしょうか。

複雑さの中の本質は、企業と監査法人双方が過去からの慣習的な方法で、いわば経験知に基づきながら意思決定された仕事が進められているだけのように見えてしまいます。

それゆへに企業が追い込まれた状況において発生する問題では、簡単に[意見不表明](#)といったことになるのです。

多くの人間たちは、社会に蔓延する複雑さをほとんど理解できていません。

勿論、一般社員から経営職まで含めていえることですが、この複雑さの海に溺れているといった状況でしょう。

これからの時代、さらに複雑化は増大していくのですが、事業をおこなう当事者は、物事をシンプルに考えて行動できるようにすることが必要になると想像しています。

実際の企業活動は、社会制度が複雑化されているにもかかわらずやっていることは比較的シンプルです。

当事者としての企業体からみていけば、当然にやらなければならないことは法律や制度が複雑化されようがドタバタすることではありません。商売が日常的におこなわれているのですから、日々適正な方法で商売を把握することしかありません。

むずかしいのは未来を予測、予想する場合です。

工事などのように長期間にわたって事業を進めていくようなものは、日々と同時に月次、年次を正確に記録していくことが必要になります。

しかも、人間が予測、予想した計画ですから、相当大的な誤差が発生することがあり、その誤差をどれくらい早く認識できるかでしょう。

現場では、比較的簡単に認識していますが、上場会社では経営数字として開示するというルールがあり、そのプロセスの中で対応する人間（ほとんどは経営職、管理職です）が物事を複雑化させていきます。

本来であれば、なにもコンプライアンスを高らかに叫ぶ必要もありません。

可能な限り事実即した内容（経営結果）を計画に対して良くても悪くても正しく報告、発表すればよいだけです。

法律などの新設や改正があればかならず複雑化された内容になりますが、法律を理解しておくことも大切ですが、事業主体としての人間がおこなう仕事内容を自社でどのくらい把握できているかのほうがはるかに重要です。

この頃起きる不祥事は、法律や制度をいくら進化させても人間（経営職、管理職）が中心になっているところで起きているものが多く、一筋縄ではいかないようになってきています。

まさに人間がもつ複雑さの中に絡まっているような状態でしょうか。

しかも、人間が絡とその答えは無数にあり、正しい解がみえにくくなります。

だからこそ最初から正しい方法で愚直に仕事を進めることが求められます。

まさに「Do it Right the First Time!」なのです。

また、わからなくなれば、「back to basics!」です。

法律などは複雑化することで高度になっているように感じますが、むしろ日常的な仕事、肉体を使っておこなう仕事の中に物事の本質があり、法律や制度優先で考えるのではなく、日常的な活動の中でシンプルにやるべきことを体系化する、いわばだれでもわかる、誰でも正しくできるようにチャート（自社の海図）を作成していかなければなりません。時間はかかりますがシンプルにやるべきことが決定されていれば、自らの行動を通して必然的に企業活動の実態にあった結果が現れてきます。

法律や制度がいくら複雑化されようが企業が進むべき航路を明確にしてどのような人達でも理解できるようにチャート（自社の海図）を作成して対応していくことが重要です。

江戸時代ではないのですから企業が進むべき航路の答えは明確に見えています。

その見えている岩礁や浅瀬、あるいは潮流の速さなど、自社の船の大きさに合わせてチャート（海図）を作成するです。

むずかしいマニュアルの作成ではなく、あくまでチャート（海図）、企業が進むべき航路を示しておくだけです。

時間とコストはかかりますが、それは当然です。

理由は、他人の資本（金）で企業活動をしているのですから、経営者はそれに応じた自社の仕組みを構築し、経営結果を報告する義務があるからです。

法律や制度、まして監査法人などを期待しては、本当の意味で経営などできるわけではありません。

人間は、一般社員から経営職まで人間であるがゆえに複雑です。

人間が複雑だからこそ、複雑な機能をもつ組織の運営や技術開発などをおこなうことができますが、それだけに自社のチャートに合わないことがあれば、経営職も管理職、あるいは一般社員のすべてが自社のチャートに戻ってシンプルに考えてみる必要があります。

いろいろな複雑なことをやってのける人間の存在が大きな船を操船することを可能にします。

他方、大海原の中にある難所はシンプルなチャートを確認することで正しい航路に進むことができます。

社会に存在する多くの複雑さに翻弄されるのではなく、自ら主体となって日々シンプルに考えて行動することでしか、正しい結果は出現しません。

いずれにしても複雑さに狼狽することなく、自分たちでやるべきことをシンプルにしっかりとやっていくだけではないでしょうか。

そうすることで正直に経営結果を報告することができるものです。